

## 前号109号の訂正とお詫びについて

前号にて『新商品紹介～新型CCV(締固め管理装置)～』の販売をご紹介しましたが、訂正させていただきます。今後は新型CCVも含めてSAKAI転圧管理システムとして発売を予定しています。時期は来期早々を予定しています。

また、『中小企業経営強化税制』のご紹介で小型特殊について対象機械のTS160-2は適用外です。更に「即時償却のみ適用」とあったのは「即時償却または税額控除のみ適用」の誤りでした。

ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんでした。今後この様なことのないように努力致します。

## 新製品紹介 ～新型タイヤローラ TZ704～

酒井重工業は、このたび新たに10tタイヤローラTZ704を9月より全国発売しました。

新型10tタイヤローラTZ704は、道路運送車両の保安基準平成26年排出ガス規制および特定特殊自動車排出ガス2014年基準に適合しているだけでなく、一歩進んだ安全対策を取り入れております。

## 1) 絶対に錆びない散水タンク

散水ノズルの詰まりを極力抑え、いつもきれいな水で気持ち良い施工ができます。初採用から17年、多くのお客様にご好評を頂いております。

## 2) コーナーミラー、バックミラーの設置

前方左右のコーナー部と後方の死角を限りなく少なくすると同時に、視線移動も最小限にしたことで安全にすばやく確認ができます。

## 3) 音声付警告モニタ

DPF再生情報をモニタに自動表示します。さらに音声とブザーで確実に再生情報をご案内します。

## 4) 2系統のアクセルワーク

スロットルレバーと前後進レバーの操作で一定速度の転圧や、特殊現場での転圧が容易に行えます。さらにアクセルペダルによる快適な運転と転圧作業ができます。

## 5) 液剤飛散防止カバー(前輪)

タイヤへの確実な散布と周囲への飛散防止で構造物を汚しません。また、メンテナンスを考えカバーが大きく開閉します。

## 6) ECOモード

ECOモード時は、フルスロットル時より燃費が最大36%向上し、騒音も超低騒音基準値よりさらに5dB低い騒音値となっています。

## 7) 開閉しやすいキャノピ

安全に軽快な操作ができるようダンパを採用しました。女性でも楽に操作することができます。

## 8) TZ704は中小企業経営強化税制の適用対象モデルです。是非ご活用ください。

今後ともサカイのタイヤローラにご期待ください。



## 第110号

発行所 酒井重工業株式会社  
住所 東京都港区芝大門1-4-8  
電話 03-3434-3401  
FAX 03-3434-3419  
発行人 水内 健一



TZ704

製品仕様

項目		単位	TZ704
質量	運転質量※1	kg	15,000
寸法	全長×全幅×全高	mm	4,985 × 2,275 × 2,905
	締固め幅	mm	2,275
機関	メーカー/形式	-	クボタ V3800-CR-T-YDN
タンク容量	燃料タンク	L	91
	散水タンク	L	3,500

※1:キャノピ、鉄バラスト付

## 世界の道路事情 ～中南米編 (キューバ)～

キューバはアメリカのフロリダ半島より約150km南に位置しており、面積は日本の本州の約半分、人口は約1,100万人の島国です。亜熱帯気候のため一年中温暖であり、キューバ国民は、スペイン系白人とムラート（白人と黒人の混血）を中心に構成されています。医療水準が高く、長年行われてきた識字率向上プロジェクトにより識字率は99.8%と、世界でもトップクラスを誇っております。

2015年、半世紀以上も国交を断絶していたアメリカとの国交正常化のニュースは記憶に新しいと思います。それを受け、日本を含んだ世界各国が、キューバへのインフラ投資、資源開発の援助や消費市場の開拓を検討しており、今注目されている国の一つです。

観光地として有名な場所のひとつに、渓谷に架かる「バクナヤグア橋」があります。この橋は、国を東西に横切る高速道路の途中にあります。全長313m・高さ112mと国内最長・最高地を誇っており、観光客で賑わっています。

キューバでの主な交通手段はバスやタクシーですが、国全体の道路状況は芳しくなく、舗装率は55%に留まっています。整備不十分や干ばつ等の自然災害による道路老朽化も進んでおり、首都ハバナにおいても、ひび割れやわだち掘れが多く見られます。近年、観光地としても人気が高まりつつあるため、より良いインフラ整備が求められております。

当社も、製品を通じてキューバのインフラ整備に貢献して参ります。



キューバ



バクナヤグア橋



首都ハバナ市内の道路（ひび割れ）



首都ハバナ市内

## 生産拠点紹介 ～埼玉県川越市 生産センター～

今号より当社の事業所を紹介します。まず、マザー工場である生産センターをご紹介します。

場所は埼玉県川越市にあり、昭和40年5月に東京都港区芝より移転しました。敷地面積は、約67,000㎡（東京ドームの約1.4倍）です。現在は、小型タイヤローラから大型振動ローラ、ロードカッターやロードスタイビライザまで幅広く生産しています。国内向け製品だけでなく海外向け製品も生産し、開発・設計に携わる人間を合わせ約270名が一緒に働いています。

それでは、各職場を案内します。

機械職場では、色々な工作機械を使って車両の部品を作っています。主に振動ローラの振動軸の加工や、複雑な形をしているケース類の加工をしています。

組立職場では、様々な部品を組み合わせて小さな固まりを作り、それらを組み合わせて車両を作っています。

製缶職場では、最新の溶接ロボットを使ったフレームとロール部品を作っています。一枚の鉄板を丸めて作り上げるロール作業は迫力があり、TV番組に取り上げて頂いたこともあります。

検査職場では、組立終了時と出荷前の検査を行っています。その他、塗装職場と整備職場もあります。

当社の車両は、購入部品と自社加工部品から組み立てられていますので、上記以外にも部品を保管、供給する職場や部品を検査する職場、部品を発注する職場など多種多様な職場が存在します。

さらに冒頭でも説明した通り、生産センターは当社海外工場のマザー工場の役割も担っているため、海外工場の研修生を受け入れ、日々、SAKAIグループ全体の品質向上を目指しています。

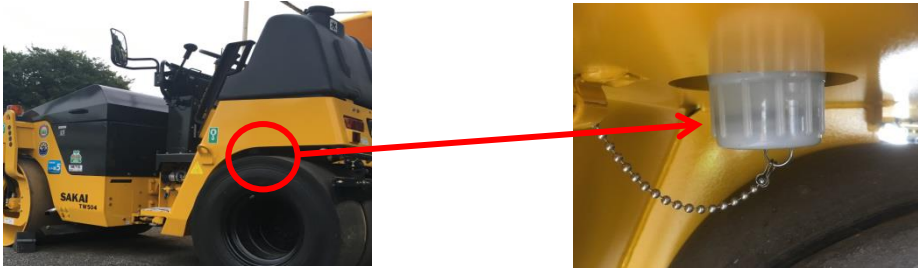
生産センターでは、お客様に喜ばれる製品作りを今後も追及していきます。



## 寒冷期の水抜き方法～コンバインドローラ TW354、TW504～

今回は寒冷期、散水ポンプや配管等の凍結を防ぐために作業終了後の水抜き方法と、オプションで不凍液タンクを取付けた場合の水抜き方法を紹介いたします。

### ・標準車の場合



- ① 散水タンクのドレンキャップを外し、タンク内の水を完全に抜く。



写真 1



写真 2



写真 3

- ② 前後の散水パイプのドレンコック（写真1）、散水ポンプドレンコック（写真2）、散水フィルタドレンコック（写真2）を全て開き水を完全に抜く。  
 ③ 水が完全に抜け切ったのを確認し、すべてのドレンコックが開いた状態で散水ポンプを約 30 秒間空転させポンプ内の水を完全に抜く。

### ・不凍液タンクを取り付けた場合(オプション)



不凍液タンク



コック A



写真 4

- ① 散水ポンプのコック A 以外のコックを閉じる。  
 ② 前後の散水パイプのコックを閉じる。  
 ③ 吸水方法を不凍液タンク側からの吸水に切り替える（写真4）。  
 ④ 散水ポンプを作動させ、コック A から不凍液が出ることを確認後、コック A を閉じる。  
 ⑤ 最後に散水ノズルから不凍液が出ることを確認します。

このように散水ポンプや散水パイプ、配管に不凍液を循環させる事により凍結防止になりポンプや配管の損傷を防ぐことができます。